

～“首里”の継承～

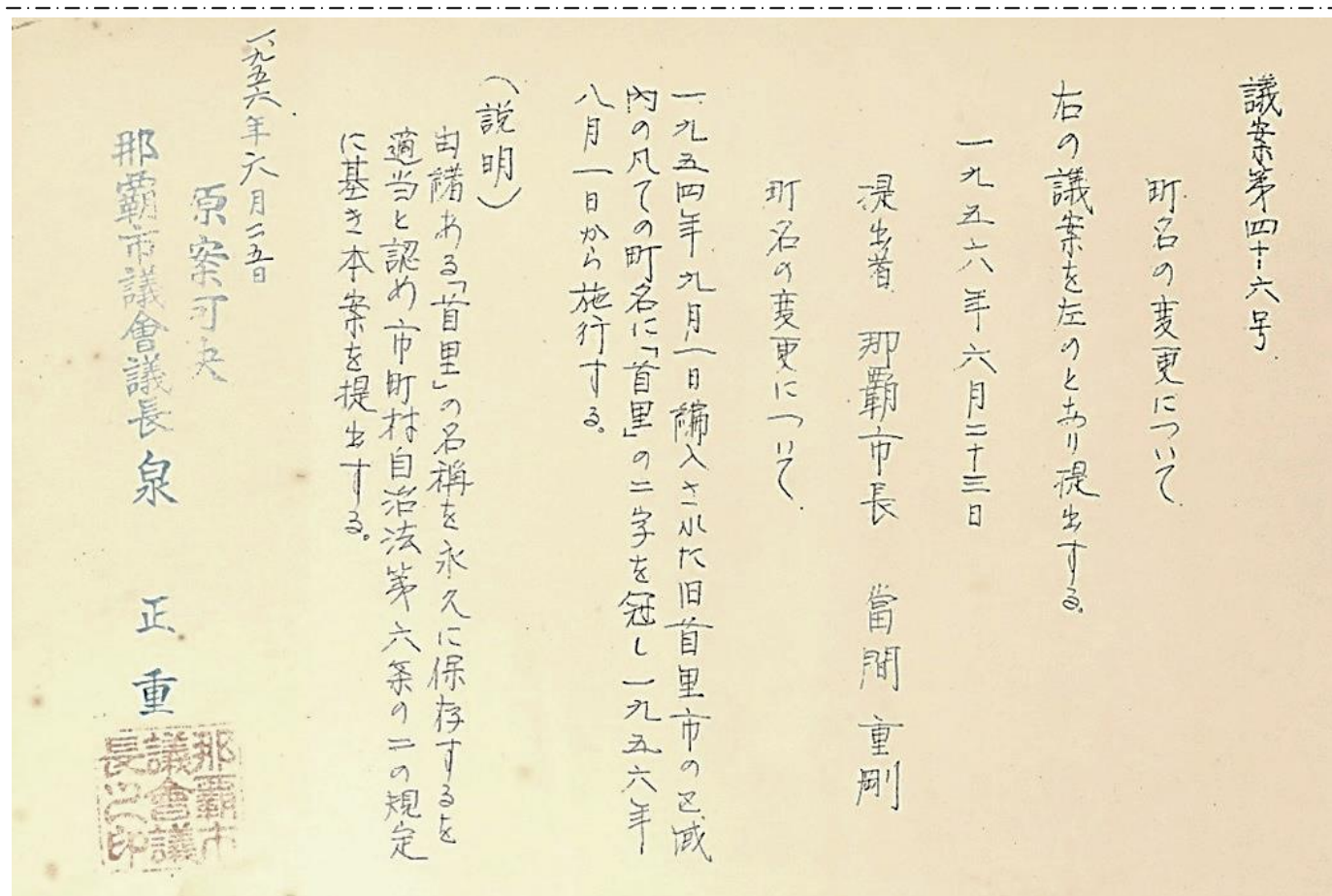
那覇市首里儀保町といった「首里」と名のつく地域は、かつて首里市という一つの市でした。1954年9月1日に小祿村と共に合併し那覇市となりましたが、由緒ある「首里」の名称が消える事に対しては懸念があり、合併後すぐに尚詮氏を代表とする首里青年会から「首里」の名を残してもらいたいとの要望書が市長へと手交されています。同じ年の10月には「首里」の名称存置に関する意見書について、という決議案も議員から出されました。「日本の文化は沖縄に残り、



首里支所となった旧首里市役所（那覇市歴史博物館所蔵）

沖縄の文化は首里に残る」という東恩納寛惇の言葉を引用し、「昔日に対する郷愁のみでなく故郷をよく認識する意味からも、又我々の子孫に正しい故郷の歴史を継承させる意味においても是非必要である」と提案理由を述べています。

そして1956年6月25日、第12回議会で「町名の変更について」という議案が可決されました。これは、旧首里市の区域内すべての町名に「首里」の二字を冠し8月1日から施行する、という内容でした。この決定により「首里」の名は残り、現在へと受け継がれることとなりました。



原案可決された「議案第46号 町名の変更について」